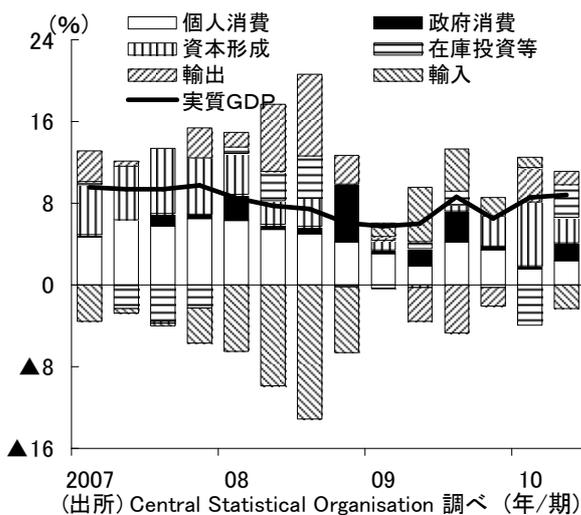


## 消費主導から投資牽引型成長に向かうインド経済

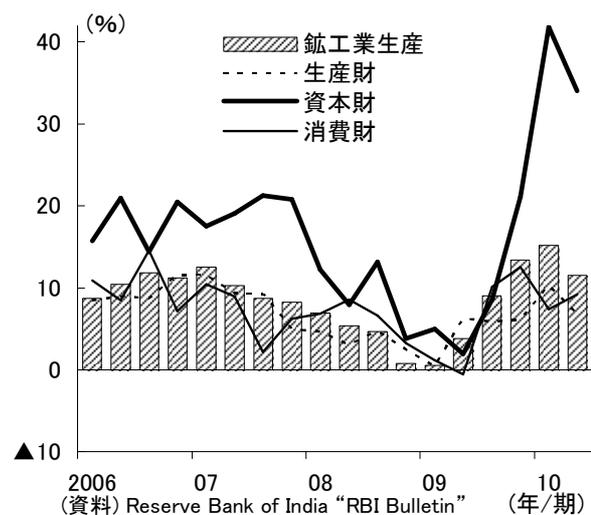
～ インフラが成長阻害から成長促進に転換 ～

- (1) インド経済はハイペースの成長持続。実質経済成長率（前年比）は2010年1～3月期の8.6%から4～6月期には8.8%へ一段と加速（図表1）。牽引役は底堅い個人消費に加えて、設備投資や在庫積増の積極的な企業投資と政府のインフラ投資。
- (2) これまでインド経済は旺盛な消費拡大が成長の源泉。しかし、このところ消費に加えて、設備投資が盛り上がり、投資牽引型成長スタイルへ次第に転換。鉱工業生産の推移をみると、昨年半ば以降、とりわけ資本財が際立って増加（図表2）。投資拡大は、乗数効果を通じて高度成長を生み出す原動力。
- (3) 背景には、成長加速と財政好転に伴って物流網や電力、上下水道などインフラ整備が進み、成長制約要因が後退。加えて、経済活動の円滑化に向けた公的セクターの業務効率化の推進。例えば、港湾や道路のインフラ整備との接点に位置する輸出手続きについてみると、近年、急速に改善。所要日数は、2006年では各国中最長の4日。しかし09年にはアメリカや中国、ブラジル、マレーシア等より少ない2日強へ、3年で半減の勢い（図表3）。
- (4) そうした情勢下、インド向け投資は本年入り後も直接投資、証券投資とも引き続き高水準で推移（図表4）。所得雇用環境の改善に伴う消費市場の拡大に加えて、投資拡大が本格化するなか、インド経済は引き続きハイペースの成長を持続する公算大。

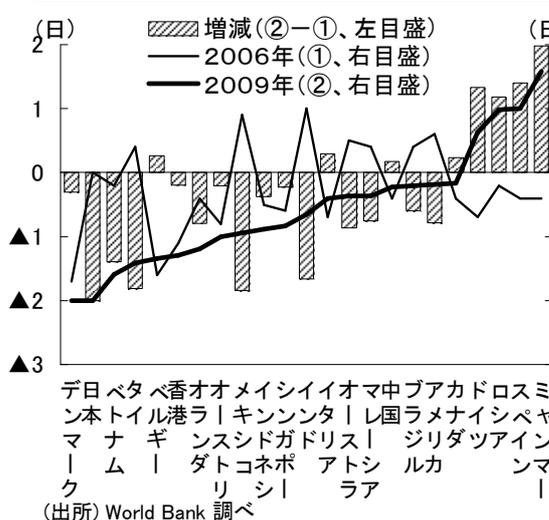
（図表1）インドの実質経済成長率（前年比）



（図表2）インドの鉱工業生産（前年比）



（図表3）各国輸出通関手続きの平均所要日数



（図表4）インドの直接投資と証券投資

